表1

CENTRAL ASIA CAUCASAS

& JAPAN

中央アジア・コーカサスと日本

さらに深化したパートナーシップに向けて

Kazakhstan

Kyrgyz Republic

Tajikistan

Turkmenistan

Uzbekistan

Armenia

Azerbaijan

Georgia

外務省

P1-P2

COUNTRY PROFILE

中央アジア・コーカサス諸国の横顔

ヨーロッパとアジアが出会う場所

　中央アジア・コーカサス諸国は、広大なユーラシア大陸のほぼ中央部に位置し、古くはヨーロッパとアジアを結ぶシルクロードの拠点として繁栄しました。この道を通じて古代より物資の移動、文化交流が盛んに行われました。ソ連から独立して以降新たな国づくりに励むこれらの国々では、日本に対する関心も高く、様々な面で交流や関係の強化が行われています。

CAUCASAS

アゼルバイジャン共和国

ノーベル兄弟が油田開発に成功した有数の資源国

首　都 　バクー

民　族 　アゼルバイジャン系（91.6%）、レズギン系（2.0%）、

ロシア系（1.3%）、アルメニア系（1.3%）、タリシュ系（0.3%）

言　語 　公用語はアゼルバイジャン語

宗　教 　主としてイスラム教シーア派

アルメニア共和国

世界で初めてキリスト教を国教化

首　都 　エレバン

民　族 　アルメニア系（98.1%）、ヤズディ系（1.1%）、ロシア系（0.3%）、

アッシリア系（0.1%）、クルド系（0.1%）、その他（0.3%）

言　語 　公用語はアルメニア語

宗　教 　主としてキリスト教（東方諸教会系のアルメニア教会）

ジョージア

日本の和食と共にジョージアの伝統的ワイン製法がユネスコ無形文化遺産に登録

首　都 　トビリシ

民　族 　ジョージア系（86.8%）、アゼルバイジャン系（6.2%）、

アルメニア系（4.5%）、ロシア系（0.7%）、オセチア系（0.4%）

言　語 　公用語はジョージア語

宗　教 　主としてキリスト教（ジョージア正教）

CENTRAL ASIA

カザフスタン共和国

日本人宇宙飛行士も同国の基地から国際宇宙ステーションに旅立つ

首　都 　アスタナ

民　族 　カザフ系（69.6%）、ロシア系（17.9%）、ウズベク系（3.3%）、

ウクライナ系（1.5%）、ウイグル系（1.3%）、

タタール系（1.0%）、その他（5.3%）

言　語 　国家語はカザフ語、ロシア語は公用語

宗　教 　主としてイスラム教スンニ派

キルギス共和国

日本人と似た外見。中央アジアの真珠と言われるイシククリ湖には三蔵法師も立ち寄ったといわれる

首　都 　ビシュケク

民　族 　キルギス系（73.8%）、ウズベク系（14.8%）、ロシア系（5.1%）、

ドゥンガン系（1.1%）、ウイグル系（0.9%）、タジク系（0.9%）、

その他タタール系、ウクライナ系など

言　語 　国家語はキルギス語、ロシア語は公用語

宗　教 　主としてイスラム教スンニ派

タジキスタン共和国

風光明媚な山岳と豊かな水の国

首　都 　ドゥシャンベ

民　族 　タジク系（84.3%）、ウズベク系（12.2%）、キルギス系（0.8%）、

ロシア系（0.5%）、その他（2.2%）

言　語 　公用語はタジク語、ロシア語も広く通用

宗　教 　主としてイスラム教スンニ派

ウズベキスタン共和国

古都サマルカンドはティムール帝国の首都としても有名な観光地

首　都 　タシケント

民　族 　ウズベク系（84.4%）、タジク系（4.9%）、カザフ系（2.4%）、

カラカルパク系（2.2%）、ロシア系（2.1%）

言　語 　国家語はウズベク語、ロシア語も広く通用

宗　教 　主としてイスラム教スンニ派

トルクメニスタン

大理石造りの「白亜の首都」がある永世中立国

首　都 　アシガバット

民　族 　トルクメン系（85%）、ウズベク系（5%）、ロシア系（4%）、

その他（6％）等

言　語 　公用語はトルクメン語、ロシア語も広く通用

宗　教 　主としてイスラム教スンニ派

人口比較（2023年、国連人口基金）

ウズベキスタン　3,520万人

カザフスタン1,960万人

アゼルバイジャン1,040万人

タジキスタン1,010万人

キルギス670万人

トルクメニスタン650万人

ジョージア370万人

アルメニア280万人

日本1億2,330万人

一人当たりGDP比較 （2023年、国際通貨基金）※一部推計値

カザフスタン12,968米ドル

トルクメニスタン12,934米ドル

アルメニア8,283米ドル

ジョージア8,165米ドル

アゼルバイジャン7,530米ドル

ウズベキスタン2,509米ドル

キルギス1,830米ドル

タジキスタン1,180米ドル

日本3万950米ドル

地図

コーカサス

ジョージア　面積：69,700㎢

アルメニア　面積：29,800㎢

アゼルバイジャン　面積：86,600㎢

中央アジア

ウズベキスタン　面積：448,969㎢

トルクメニスタン　面積：488,000㎢

タジキスタン　面積：142,600㎢

キルギス　面積：198,500㎢

カザフスタン　面積：2,724,900㎢

日本　面積：377,900㎢

P3-4

PARTNERSHIP

自由で開かれた持続可能な発展に向けて

対中央アジア・コーカサス外交の重要性

地政学的重要性

　ロシア、中国、アフガニスタン、イラン、トルコに囲まれ、アジアとヨーロッパ、ロシアと中東を結ぶ十字路に当たるこの地域の情勢は、テロ等の非伝統的脅威も含め、ユーラシア大陸全体の安全保障環境に大きく影響するため、周辺諸国との関係も含め、この地域の動向は日本はもとより国際社会全体の大きな関心事項となっています。

豊富なエネルギー資源

　この地域では、石油、天然ガスなどのエネルギー資源の他、ウラン、レアメタルなどの様々な鉱物資源が埋蔵されており、生産を行っています。特に、カスピ海周辺地域から欧州・ロシア・中国に向けてパイプラインが設置されており、重要なエネルギー輸送ルートに位置していることから、この地域の安定と繁栄は、国際エネルギー安全保障の観点からも大変重要です。

新しいパートナーシップに向けて

　日本は、中央アジア・コーカサス諸国の自由で開かれた持続可能な発展を支援しつつ、二国間関係を強化しています。特に、2015年10月に安倍総理大臣（当時）が日本の総理大臣として初めて中央アジア5か国を歴訪し、2018年9月に河野外務大臣（当時）が日本の外務大臣として初めてコーカサス3か国を歴訪したことを受け、中央アジア・コーカサス諸国との関係は新たなステージに入りました。

近年の首脳レベルの往来

2015年3月　ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領（当時）が訪日

2015年10月　安倍内閣総理大臣（当時）が中央アジア5か国を訪問

2016年11月　ナザルバエフ・カザフスタン大統領（当時）が訪日

2018年10月　ラフモン・タジキスタン大統領が訪日

2019年10月　ナザルバエフ・カザフスタン初代大統領、ジェエンベコフ・キルギス大統領（当時）、

ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領（当時）、サルキシャン・アルメニア大統領（当時）、

ズラビシヴィリ・ジョージア大統領が訪日（即位の礼）

2019年12月　ミルジヨーエフ・ウズベキスタン大統領が訪日

2021年7月　サルキシャン・アルメニア大統領（当時）が訪日（東京オリンピック競技大会開会式）

2023年11月　ジャパロフ・キルギス大統領が訪日

写真１　日・キルギス首脳会談（出典：首相官邸ホームページ）

「中央アジア＋日本」対話

　日本は、中央アジアの安定と発展には地域共通の課題の解決に向けた地域協力が不可欠との観点から、2004年に「中央アジア＋日本」対話を立ち上げました。現在では他の主要国も同様の枠組みを設けており、「中央アジア＋日本」対話はこれらの先駆け的存在です。

2022年12月

「中央アジア＋日本」対話・第9回外相会合

　2022年12月には中央アジア5か国の外相が初めてそろって訪日し、「中央アジア＋日本」対話・第9回外相会合が開催されました。日本での開催は10年ぶりです。外相会合では、中央アジアの持続可能な発展の達成に向け、「人への投資」、「成長の質」に重点を置いた新たな発展モデルを確立し推進していくことを決定するとともに、「カスピ海ルート」についても意見交換を行いました。また、ロシアによるウクライナ侵略やアフガニスタン情勢を踏まえた対応についても率直な意見交換を行いました。

写真２　第9回外相会合

「コーカサス・イニシアティブ」

　　河野大臣（当時）は、2018年9月に日本の外務大臣として初めてアルメニアとジョージアを、19年ぶりにアゼルバイジャンを訪問しました。

　コーカサス3か国訪問の際に、日本は対コーカサス地域外交の考え方と具体的な協力方針を「コーカサス・イニシアティブ」として発表しました。

　これは、コーカサス地域を❶アジア、欧州、中東をつなぐゲートウェイの潜在性、及び❷国際社会の平和・安定に直結する戦略的重要性、の両方を備える地域として位置づけ、以下の2本の協力の柱を示したものです。

＜協力の柱＞

❶「国造り」を担う「人造り」支援（人材育成）

❷「魅力あるコーカサス」造りの支援（インフラ、ビジネス環境整備）

写真3　日・ジョージア外相会談

P5-6

ECONOMIC COOPERATION

経済協力関係

8か国の安定と経済発展を日本が力強くバックアップ

日本の協力・支援が各国の国づくりと友好関係の発展に着実な成果をあげています。

日本の取組

　中央アジア・コーカサス地域の発展と安定は、自由で開かれた国際秩序を維持・強化していく上でも大きな意義を有しています。日本は、旧ソ連時代の計画経済からの移行を支援し、経済発展に向けたインフラ整備、市場経済化に向けた人材育成、保健医療を含む社会分野など多彩な分野で支援を行っています。また、共通の課題を抱えるこの地域の国々が協力し合うことが大切との考えから、日本は国境管理、テロ・麻薬対策、防災、運輸物流、農業、観光などの分野で実践的協力を進め、地域内協力の促進を支援しています。

　ここでは日本が行っている多様な支援の一部を御紹介します。

開発協力、ODAとは

開発協力とは、「開発途上地域の開発を主たる目的とする政府及び政府関係機関による国際協力活動」のことで、そのための公的資金をODA（Official Development Assistance（政府開発援助））といいます。政府又は政府の実施機関はODAによって、平和構築やガバナンス、基本的人権の推進、人道支援等を含む開発途上国の「開発」のため、開発途上国又は国際機関に対し、資金（贈与・貸付等）・技術提供を行います。

（表）

日本による中央アジア・コーカサス地域への援助累計額

2021年度まで（単位：億円）

国名　ウズベキスタン　贈与（無償資金協力）292.53 贈与（技術協力）206.04 贈与（計）498.57 有償資金協力5010.11　合計5508.68

国名　カザフスタン 贈与（無償資金協力）68.56 贈与（技術協力）138.09 贈与（計）206.65 有償資金協力951.49　合計1158.14

国名　キルギス 贈与（無償資金協力）346.05 贈与（技術協力）218.22 贈与（計）564.27 有償資金協力375.80　合計940.07

国名　タジキスタン 贈与（無償資金協力）440.69 贈与（技術協力）106.56 贈与（計）547.25 有償資金協力-　合計547.25

国名　トルクメニスタン 贈与（無償資金協力）9.51 贈与（技術協力）13.61 贈与（計）23.12 有償資金協力45.05　合計68.17

国名　アゼルバイジャン 贈与（無償資金協力）106.14 贈与（技術協力）36.86 贈与（計）143.00 有償資金協力1011.62　合計1154.62

国名　アルメニア 贈与（無償資金協力）97.29 贈与（技術協力）47.88 贈与（計）145.17 有償資金協力318.08　合計463.25

国名　ジョージア 贈与（無償資金協力）121.83 贈与（技術協力）27.65 贈与（計）149.48 有償資金協力661.99　合計811.47

国名　中央アジア・コーカサス地域合計 贈与（無償資金協力）1482.60 贈与（技術協力）794.91 贈与（計）2277.51 有償資金協力8374.14　合計10651.65

（円グラフ）

中央アジア・コーカサス地域に対する

　DAC諸国のODA実績

2020年（支出総額/単位：百万米ドル、出典：OECD/DAC）

フランス600.85(27.5%)

ドイツ588.25(26.9%)

日本400.47(18.3%)

米国276.94(12.7%)

韓国91.88(4.2%)

その他225.80(10.4%)

写真4　来日歓迎イベントの様子

写真5　ウズベキスタンの国境管理事務所職員に対する研修の様子（写真提供：UNODC）

人材育成

国造りのための人材育成支援

「人材育成奨学計画」（無償資金協力）

「日本センタービジネスプロジェクト」（技術協力）

　「人材育成奨学計画」は、「留学生受入10万人計画」の下、1999年度に新設された若手行政官の日本留学事業で、帰国後、留学生が得た知識を自国に還元し、日本との友好関係強化に貢献することを目指しています。これまで中央アジア地域からは700人以上を留学生として受け入れ、現在では、指導者的地位につき活躍している例も見受けられます。

　また、市場経済の基盤を担う民間企業の人材育成の観点から、ウズベキスタン、キルギス、カザフスタンでは、日本人材開発センターを通じたビジネス人材育成を支援してきており、実践的なビジネススキル・ノウハウを提供しています。今後は、日本の中小企業と現地企業との関係促進にも役立つような取組を行っていく予定です。

国境管理　テロ・麻薬対策

令和元年度『中央アジアにおける国境連絡事務所及び

省庁間の機動的チームの能力強化による域内越境協力強化計画

（UN連携/UNODC実施）』（無償資金協力）

ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン

　アヘン等の原料となるケシの世界最大の生産地であるアフガニスタンに接する中央アジアは、国境管理体制が脆弱なため、アフガニスタンからの違法薬物、密輸品、テロリスト等の流入が深刻な問題となっています。また、中央アジア域内の貿易、物流等の拡大に伴い、国境を越える組織犯罪の増加も懸念されています。この協力は、中央アジア５か国における国境連絡事務所の機能強化のための機材供与、関係機関職員の能力強化のための研修の実施、中央アジアの国境管理・薬物対策の拠点であるウズベキスタンにおける省庁間をまたがる機動的なチームの能力向上を図るものです。この協力により、中央アジア地域の安定及び社会・経済の発展につながることが期待されます。

インフラ整備（電力）

「シマル・ガス火力複合発電所

第2号機建設計画」（円借款）

アゼルバイジャン

　アゼルバイジャンの首都バクーがあるアプシェロン半島地域は、人口と電力需要が集中する同国最大の電力需要地です。この協力は、安定的な電力供給力の拡充及び効率性向上を図り、電力不足の緩和及び同国経済の持続的成長に寄与することを目的としてガス火力複合発電設備（定格出力400MW）及び関連送電施設の建設を支援したものです。また、天然ガスを効率的に使用することで、地球温暖化の原因となる二酸化炭素、大気汚染物質である窒素、硫黄酸化物の排出量の抑制及び、単位燃料当たりの発電電力量の増加が期待されています。令和元年9月に行われた開所式典には、アリエフ大統領と山田賢司外務大臣政務官（当時）が出席しました。

写真6　アリエフ大統領、山田政務官による中央管制室での運転開始の様子

基礎社会サービス（保健）

保健・医療機材供与

（無償資金協力）

中央アジア・コーカサス全8か国

　2020年、中央アジア・コーカサス地域でも新型コロナウイルスの感染が確認され、その後の感染者数の増加とともに、ソ連崩壊後の医療機材の老朽化や不足が改めて浮き彫りになりました。保健・医療施設の整備、保健・医療体制の強化が喫緊の課題であることを踏まえ、日本政府は、無償資金協力により、中央アジア・コーカサス地域の全8か国に対し、新型コロナウイルス対策支援として質の高い日本製の医療・救急機器を供与しました。この協力により、中央アジア・コーカサス地域各国の感染症対策の向上が期待されます。

写真7　アルメニアに供与された救急車

基礎社会サービス（給水）

「ピアンジ県・ハマドニ県上下水道公社

給水事業運営能力強化プロジェクト」（技術協力）

タジキスタン

　タジキスタンは水資源の豊富な国ですが、住民の安全な水へのアクセスは未だ限られています。その中でも特に深刻な状況であったハトロン州ピアンジ県及びハマドニ県においては、これまでも給水施設等の改善を支援してきており、本プロジェクトでは両県の水道公社に対して、適切な料金徴収や安定した給水サービスを提供するための運営管理能力の向上を支援しています。水道公社の事業運営が改善されることにより、自立的かつ持続可能な給水事業を可能にし、安全な水にアクセスできる地域住民が増えていくことが期待されます。

写真8　井戸ポンプの維持管理に関する研修を受ける様子

農業・ビジネス振興

「『一村一品』プロジェクト」

（技術協力）

　大分県発祥の一村一品運動は地域資源を活かして特産品を育てることにより、地域やコミュニティの活性化を目指す取組です。キルギスの地方部では、ソ連崩壊後、雇用がなくなり、貧困問題が深刻化していました。また、村落部では女性の地位が低く、家庭の用事以外で女性が出かける機会はほとんどありませんでした。キルギスでの一村一品の取組は、商品化の可能性の高い羊毛や野生の果実類等を多く生産するイシククリ湖周辺地域から始まり、2017年からその活動をキルギス全土に広げています。小さな地域で始まった取組ですが、今ではキルギス各地の人々の手で地域の特産品を利用したブランド商品が作られ、一村一品の活動の輪を広げています。

写真9　プロジェクトの取組によって生まれた各種製品

P7-8

FRIENDSHIP

中央アジア・コーカサス諸国と日本

日本と中央アジア・コーカサス諸国は２０２２年に外交関係樹立３０周年を迎えました。

日本の協力・支援が各国の国づくりと友好関係の発展に着実な成果をあげています。

アゼルバイジャン

日本大使館開設：2000年

在京アゼルバイジャン大使館開設：2005年

　紀元前から、欧州、中東、中央アジア文明の交差路として多民族が行き交い、豊かで味わい深い文化が育まれてきました。首都バクーや古都シェキの世界遺産など各地の歴史遺産に加え、石榴（ザクロ）を始めとする果物・野菜、羊肉、キャビアなど多彩な食材と民族料理は外国人旅行者を惹き付けています。

　1546年に世界最古の石油井による採掘が行われ、20世紀初頭にはバクー油田を中心に世界の石油の生産量の半分を占めていた資源大国であり、独立後は国際コンソーシアムによる大規模な石油・天然ガス開発と欧州等への輸出により飛躍的な経済成長を遂げました。また、20代・30代が全体の3分の1を占める若い人口構成を持ち、さらなる経済成長も期待されています。

　人々はとても親日的で、日本映画、アニメ、漫画への高い関心と共に、柔道、空手、合気道等の武道が特に盛んであり、オリンピックなどで日本人選手と対戦する姿を見ることもあります。

写真10　バクーの夜景

アルメニア

日本大使館開設：2015年

在京アルメニア大使館開設：2010年

首都エレバンは2018年に創立2800年を迎え、その歴史はローマより古いと言われています。アルメニアは301年に世界で初めてキリスト教を国教化した歴史豊かな国としても有名です。世界遺産に指定されているエチミアジン大聖堂を始め、現存する多くのユニークな教会建築があります。ノアの方舟が漂着したとの旧約聖書の記載で有名な大アララト山はアルメニア人の心のシンボルで、小アララト山はその山容が富士山を思わせます（現在はトルコ領）。

　在アルメニア日本大使館は2015年、在京アルメニア大使館は2010年にそれぞれ開設されました。アルメニアは日本と同様に地震が多いことから、防災分野が二国間協力の柱の一つになっています。これまでに日本の無償資金協力案件を通じて、消防車や救急車などを供与しました。また、1988年に大地震が発生したアルメニア北部のスピタク市には、JICA研修に参加した同市救急隊長のイニシアティブで東日本大震災の犠牲者のための慰霊碑が建立され、毎年3月11日に追悼式典が行われています。

写真11　アララト山

ジョージア

日本大使館開設：2009年

在京ジョージア大使館開設：2007年

　コーカサス山脈の南麓と黒海の東岸に位置するジョージアは、ロシアやトルコという周辺の大国に挟まれながらも、アルメニア人、アゼルバイジャン人、ロシア人、ユダヤ人、アブハズ人、オセット人をはじめ多様な民族と共に共存してきた国です。ジョージア正教が最も信仰されており、周辺国の言語と異なる文字を持つジョージア語は2016年にUNESCOの無形文化遺産に登録されました。8000年の歴史を有する世界最古のワイン生産地として有名であり、シュクメルリ等のジョージア料理は日本においても人気が高まっています。

　ジョージアは現在EU加盟に向けた諸改革を行っており、日本もこれを支援しています。2022年、日本・ジョージア外交関係樹立30周を記念して各種文化行事やコロナ禍以降最大規模となる「ジャパン・ビジネス・フォーラム」が開催されました。同年12月のダルチアシヴィリ外相の訪日をはじめ両国の要人往来も復活し、二国間関係が着実に発展しています。

写真12　ジョージア料理

ウズベキスタン

日本大使館開設：1993年

在京ウズベキスタン大使館開設：1996年

　首都タシケントの夏は暑く、40度以上まで気温が上昇しますが、空気が乾燥しているため、日陰ではそれほど暑さを感じることなく、冬も比較的過ごしやすい気候です。食べ物は、お肉やにんじんなどの野菜が入った米料理のプロフが有名で、各地方によって味の違いを楽しむことができるのも、ウズベキスタンでの旅の楽しみの一つです。ウズベキスタンで特に有名な町としては、通称「青の都」サマルカンドや、ブハラ、ヒヴァなどのシルクロードゆかりの地が挙げられ、多くの日本人観光客が訪れています。

　第二次大戦後、タシケントに抑留された日本人が建設に従事したナボイ劇場は、1966年の大地震の際に、周りの建物が全て倒壊した中でも倒壊しなかったとして、日本人の仕事の正確さが賞賛の的となりました。そのような歴史的背景もあり、ウズベキスタンの人々は日本に対して非常に友好的です。2022年４月には、林外務大臣（当時）が日本の外務大臣として12年ぶりにウズベキスタンを訪問、また2024年３月には、サイードフ外務大臣も訪日するなど、ハイレベルでの往来も活発化しています。

写真13　レギスタン広場（サマルカンド）

カザフスタン

日本大使館開設：1993年

在京カザフスタン大使館開設：1996年

　カザフスタンは、世界第9位の面積を誇り、石油、ウラン等、豊富な天然・鉱物資源を有しています。

北部は冬には－40℃にも達することもある寒冷地ですが、山脈が連なる南部は冬でも比較的温暖であり、また、カスピ海に接する西部には砂漠地帯が広がります。

　100以上の民族が住み、クムス（馬の発酵乳）やベシュバルマック（馬・羊肉を乗せた麺料理）等の料理、ドンブラ（弦楽器）など、多彩な民族文化があります。

　首都アスタナは日本を代表する建築家であった故黒川紀章氏の案に基づき都市設計が進められました。また、カザフスタンの北東部には旧ソ連時代の核実験場であったセラミパラチンスク核実験場がありあます。第二次大戦後はロシア以外で最大となる6万人近くの日本人が抑留され、カザフスタンの各地に墓地が存在しています。2022年4月には、林外務大臣（当時）が日本の外務大臣として12年ぶりにカザフスタンを訪問するなどハイレベルでの交流も活発に行われています。

写真14　セラミパラチンスク核実験場閉鎖記念碑（セメイ）

キルギス

日本大使館開設：2003年

在京キルギス大使館開設：2004年

　キルギス人は非常に親日的で、顔立ちが日本人と似ている人が多く、新生児のお尻などに蒙古斑が出るのも日本人と同じ。キルギスは国土の大部分を天山山脈とその支脈アラトー山脈が占める山岳国家で、盆地に位置する首都ビシュケクからは壮大な山々の景色を見渡すことができます。

　また、中央アジアの真珠と称される保養地イシククリ湖は、玄奘三蔵も立ち寄り、湖底にシルクロード遺跡が沈んでいるとされる湖として、日本人観光客も訪れています。2012年からその湖畔で開催されているシルクロード国際マラソンには、毎年日本や海外からマラソン愛好家が参加しています。

　二国間協力の代表的な取組として、地域の特産を付加価値の高い商品に変えて販売し、地域やコミュニティの活性化を図る日本発の一村一品運動が2006年から実施されています。イシククリ州で始まったその運動は着実な成果を挙げ、州を超えてキルギス全土に広がっています。2023年11月には、ジャパロフ・キルギス大統領が初訪日するなど、ハイレベルの往来も活発化しています。

写真15　高山リゾート「アルティン・アラシャン」（イシククリ州）

タジキスタン

日本大使館開設：2002年

在京タジキスタン大使館開設：2007年

　タジキスタンの地は、9～10世紀にかけてサーマーン朝ペルシャに属していました。サーマーン朝最盛期を築いたイスマイル・ソモニは国家的英雄とされ、通貨（ソモニ）、タジキスタン最高峰（イスマイル・ソモニ峰）、首都ドゥシャンベの大通りなどの名前にもなっています。

　北部ソグド州にある考古遺跡「サラズム」は紀元前4千年以上前から人々が生活していたことを物語っています。また、16世紀のヒッサール要塞、イスカンダルクルなどの湖で知られる北西部のファン山脈、サレズやカラクルなどの雄大な湖がある東部のパミール山脈はタジキスタンの重要な観光資源です。

　ソ連崩壊後、中央アジアで唯一の内戦（1992～97年）が勃発し、1998年には、国連ミッションで派遣された秋野豊氏が殉職されました。日本は内戦からの復興を支えるとともに、今日まで開発協力を続けています。現在では、アニメなど日本文化を楽しむ若者が増えています。伝統武道グシュティンギリは日本の柔道と似ているとも言われ、柔道や空手も人気です。

写真16　ヒッサール要塞

トルクメニスタン

日本大使館開設：2015年

在京トルクメニスタン大使館開設：2013年

中央アジア最大級の遺跡「古代メルヴ」をはじめ、トルクメニスタンには多くの遺跡が存在します。首都アシガバットは「白亜の大理石建造物の凝縮度の高さ」で世界一に認定されています。ベルディムハメドフ前大統領の決定により、2007年9月、初めて現地の大学に日本語学科が開設されました。その後、2015年の安倍総理（当時）訪問時の首脳間合意を受け、日本式工学教育を取り入れた域内で唯一の工科大学が設立され、同時に日本語教育も拡充されました。日本語学習者数は2015年当時の約50名から現在は中央アジア地域で最大の約13,000人にまで急増しています。

　また、天然ガス埋蔵量世界第4位のトルクメニスタンでは、日本企業協力のもと、オヴァダンデペのガス・ガソリン化プラント、ガラボガスの尿素肥料製造プラントやチャルジェウのガスタービン火力発電所など、日本の高度な技術を用いた複数の天然ガス加工大型プラントが建設され、経済の多角化が図られています。

写真17　白亜の首都アシガバット（愛の街）

※下部注釈参照

※日・中央アジア5か国外交関係樹立30周年（2022年）公式ロゴマーク

P9-10

CULTURAL TOPICS

文化・社会探訪

World Heritage

【世界遺産】

古都サマルカンド

(2001、文化遺産)

（ウズベキスタン）

　紀元前からオアシス都市として栄えた古都サマルカンドは，抜けるような青空とティムール帝国時代（14～15世紀）に築かれた青色タイルに彩られたモスク（イスラム寺院）により，別名「青の都」と呼ばれています。重厚な建築物に囲まれたレギスタン広場の姿は，17世紀に形づくられました。

クニヤ・ウルゲンチ

(2005、文化遺産)

（トルクメニスタン）

　クニヤ・ウルゲンチはトルクメニスタンの北西部，アムダリヤ川の南側に位置し、12世紀にはホラズム・シャー朝の首都として発展しました。旧市街には11～16世紀の一連の建築物が残されており，モスク，隊商宿の門，要塞，霊廟，高さ60mのミナレットなどがあります。

サラズムの遺跡

（2010、文化遺産）

（タジキスタン）

　紀元前4000年から3000年代の末にかけて，中央アジアで人類が定住生活を発達させたことを示す考古遺跡です。同地域における都市形成の初期発展を示しており，居住民が中央アジアとトルクメニスタンを含む中央アジアの大草原からイラン高原，インダス流域，遙かインド洋に及ぶ人々と交流を行っていたことが伺えます。

シルクロード：

長安-天山回廊の交易路網

(2014、文化遺産)

（カザフスタン、キルギス、中国共有）

　ユーラシア大陸を横断するシルクロードの遺跡群のうち，中国，カザフスタン，キルギスの3か国33遺産により構成されています。宮殿跡，交易拠点，石窟寺院や要塞跡などが含まれ，シルクロードが紀元前2世紀から16世紀にかけて，様々な文化を結び，交易，宗教，芸術など広範囲にわたる交流を担ったことを示しています。

西天山

(2016、自然遺産)

（ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス共有）

　ウズベキスタン，カザフスタン，キルギスの3か国，7つの自然保護区から構成されます。世界最大の山脈のひとつである天山山脈の西側に位置しており，標高は高い所では4,503mにも及び，多種多様な動植物が見られます。特に植物の多様性に優れ，多くの栽培品種の原種が生育しています。また，猛禽類やユキヒョウなどの希少種が多く生息しています。

シェキの歴史地区とハーンの宮殿

(2019、文化遺産)

（アゼルバイジャン）

　大コーカサス山脈の麓に位置するシェキは、アゼルバイジャンで一番美しい古都と言われています。交易の要衝として栄え、絹の産地としても知られています。石と煉瓦で作られた家々や、シルクロードを通る隊商のためのキャラバンサライ（隊商宿）、寄木細工とステンドグラスで飾られた窓や扉が美しいハーンの宮殿等が見どころです。

エチミアジンの大聖堂と

教会群及び

ズヴァルトノツの古代遺跡

(2000、文化遺産)

（アルメニア）

　アルメニアは301年，世界で初めてキリスト教を国教と定め，エチミアジンに大聖堂を建設しました。大聖堂と教会，ズヴァルトノツの古代遺跡は，アルメニア風の中央ドームや十字廊が特徴的であり，この地方の建築と芸術の発展に大きな影響を及ぼしました。

アッパー・スヴァネティ

(1996、文化遺産)

（ジョージア）

　コーカサス山脈に囲われたアッパー・スヴァネティ地域では，中世風の村落や街並みが残る見事な山岳風景が見られます。住居及び侵略者に対する防衛拠点として用いられた中世風の民家が，今なお200戸以上残る村落もあります。

Souvenirs

【お土産】

ドライフルーツ・ナッツ

　中央アジア諸国は日当たりがよく、果物がしっかりと甘く育ちます。保存食として、アプリコットやブドウ、さらには珍しいメロンのドライフルーツなども作られています。ドライメロンは和菓子にも似た味で、中央アジアの緑茶に合います。

　しばしばドライフルーツとセットでお土産にされているのが、アーモンド、ピスタチオにクルミなどの様々なナッツ類。塩や砂糖で味付けしたものがあります。

写真18　ウズベキスタンのお土産

陶器

　地域によって色や模様に特徴があり、作り手によっても柄が異なります。特にウズベキスタンの町リシタンでは1000年も前から、鮮やかな青が印象的な陶器作りの技術が受け継がれています。

　どんなに暑くてもお客様へのおもてなしにお茶を振る舞うのが一般的なので、旅行中に一度は茶器でお茶をふるまわれることでしょう。

写真19　ウズベキスタンの食器

お茶

　紅茶や緑茶は人々の日常には欠かせないものです。なかでもアゼルバイジャンでは紅茶が多く栽培され人々に親しまれています。苺やレモンのフレーバーティーから、シナモン、タイム、ジンジャーなどのスパイスを加えたものまで種類も豊富です。紅茶はしっかり濃く淹れて、砂糖をかじりながら飲むのがアゼル流。スイーツとの相性も抜群です。

写真20　アゼルバイジャンの紅茶

絨毯

　伝統的には、果物や植物を染料とした羊毛・シルクの絨毯が作られています。大小様々なサイズがあり、模様や用途も多岐にわたります。素材の糸の太さや織り込む力の強さにより作業時間や値段が異なります。作成には何年もかかるものもありますが、その丈夫さは一生もの、何十年ももつと言われています。

写真21　メニスタンの絨毯

布製品（スザニ・アトラス・シルク）

　ウズベキスタンが発祥と言われるスザニは細やかな刺繍がほどこされた布のことで、カバンやポーチ、クッション、スマートフォンケースなど、多様な製品が売られています。絹で作られた鮮やかで特徴的な模様のアトラスは、フェルガナ盆地で生産されています。キルギスでは羊毛フェルトが有名で、キルギスで生産されたフェルト製のコースターや小物入れ、ロバなどの人形は日本でも購入できます。

　トルクメニスタンでは、既婚女性が髪を巻いて円筒型の帽子に収め、その上から頭をシルクスカーフで覆う独特の風習があります。

写真22　民の手作りのフェルトのロバ人形

はちみつ

　産地や花によって風味や香り、色や粘度、透明度が違います。野バラや向日葵、菩提樹や蕎麦など様々な花から採られたものがあります。キルギスのエスパルセット（マメ科の植物）の花から採られた白いはちみつは粘度が高く、さっぱりとした味が特徴です。トルクメニスタンのカラクム砂漠で採られたはちみつは濃厚な味や香りが特徴で、緑茶に入れるとフルーツティーの香りが楽しめます。ぜひ、お気に入りのはちみつを見つけてみてください

写真23　キルギスのホワイトハニー

Foods

【食べ物】

プロフ

　油で炒めたニンジンやタマネギ、羊肉を具に使ったスパイシーな中央アジア風の炊き込みご飯です。家庭や市場でもよく作られていて、特に結婚式などのお祝いの席には欠かせない伝統料理です。

シャシリク

　コーカサスやトルコのケバブが起源と言われているバーベキュー料理。牛、羊、鶏、豚、魚などの肉を、ニンニク、タマネギ、各種スパイスと一緒にワイン（または酢）に漬け込んでから、炭火やオーブンで串焼きにします。屋台でファストフード的に売られている光景がよく見られます。

ハチャプリ

　ジョージア人が愛する国民食で“ハチョ（ハチャ）”はフレッシュチーズ、“プリ”はパンを意味します。文字通りチーズを包んで焼いた平たいパンであり、街のいたるところで売られています。円盤状や生卵とバターをたっぷりのせたボート型など、地方によって姿形が異なるジョージアの定番料理です。

キャビア

チョウザメの卵の塩漬けであるキャビアは、フォアグラ、トリュフとともに世界三大珍味の一つに数えられ、資源量の減少により養殖が主流となるまでは、カスピ海はその一大産地でした。

ラグマン

　中央アジアで広く食されている麺料理。讃岐うどんを思わせるコシの強い手延べ麺を、たっぷりのトマトペーストや羊肉と季節の野菜、唐辛子などともにスープで煮込みます。スープのないギュロラグマンや焼きうどんに似たボソラグマンもあります。

お酒

　ジョージアはワイン発祥の地としてその歴史は8000年前まで遡るとされています。土中に埋めた甕「クヴェヴリ」で醸造する伝統製法は２０１３年にユネスコの世界遺産にも登録されました。日本の固有品種である甲州ブドウのルーツはジョージアの土着品種という研究もあります。お隣のアルメニアはブランデー生産が盛んです。また、そのほかの国々でもブランデーやウォッカなどのお酒が生産されています。

表4

SPECIAL MESSAGE

次世代に伝えたい友好と絆

文明のクロスロード

漫画家　森　薫氏

　山川出版社の令和5年度版『高校世界史』の教科書には、サマルカンドのシェル・ドル・マドラサという建物の写真が表紙として採用されています。サマルカンドは現在のウズベキスタンにある都市です。

中央アジアのさまざまな都市はユーラシア大陸の交易や文化の中心地であり、その文化圏は東洋や西洋という分け方をする必要も感じられないほどの広がりと影響と貢献とを持ちました。まさに「世界歴史」という言葉を象徴するものとして選ばれたのでしょう。

　そうして様々な人々が交流をしてきた土地柄ですから、知らない人、初めて会う人にもとても親切ですし、歓迎してくれます。

　私自身もたびたびその場で食事している方たちに呼ばれてご馳走になったりしましたし、運転手さんのお姉さんの息子さんの割礼式というパーティーになぜか招かれて、知らない人たちに囲まれながらマンティという中央アジアの蒸し餃子をお腹いっぱい食べたこともありました。

　もしあなたが中央アジアに行って誰かの結婚式に招かれたとしたら、ぜひ参加してお祝いしながら一緒に食事をしてください。皆さん喜んでくれるでしょうし、よい旅の思い出にもなると思いますよ。

写真24　森薫氏によるキルギスでの漫画ワークショップ

Profile

1978年生まれ。漫画家。「乙嫁（花嫁）」をテーマに19世紀半ばの中央アジア地域を描いた『乙嫁語り』を漫画誌青騎士（KADOKAWA）にて連載。マンガ大賞2014を受賞。主な作品に、2005年、第9回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞した『エマ』や『シャーリー』シリーズなどがある。

ユキヒョウがつなぐ中央アジアと日本

京都大学准教授

木下 こづえ氏

　中央アジアには大型ネコ科動物のユキヒョウが暮らしています。とても希少で美しいこの動物は、中央アジアの多くの国で象徴種とされています。2022年10月23日「世界ユキヒョウの日」に札幌市円山動物園と外務省中央アジア・コーカサス室、そして私が運営するユキヒョウの保全団体twinstrustとで「日本と中央アジア5か国外交関係樹立30周年」と「ユキヒョウ」を関連付けたイベントを実施させていただきました。駐日大使が動物園で各国の文化や人々の暮らしを紹介するのは国内外でも珍しい試み。動物園でその動物の生態を知る機会はあっても、動物が暮らす国の人々の生活を知る機会はあまりありません。ユキヒョウは絶滅に瀕する動物ですが、動物をまもるためには、まずはその国に暮らす人々の文化や生活を知ることがとても大切です。本イベントは、動物を通して他国への理解を深める新しい取り組みになりました。

写真25　キルギスのユキヒョウ

写真提供　札幌市円山動物園

Profile

1983年生まれ。2007年神戸大学発達科学部卒業、2011年神戸大学大学院農学研究科修了（博士号取得）。京都大学野生動物研究センター研修員等の勤務を経て、2017年より同センター助教。保全繁殖学の研究者として、｢生息地や飼育環境が変化すると、繁殖にどのような変化が生まれるのか｣を大きなテーマとして研究。

私の母国ジョージア

世界最古の文化、伝統、歴史

元力士

栃ノ心 剛史氏

　私の母国であるジョージアは、アジアとヨーロッパを結ぶ地政学上重要な位置にあります。それ故、歴史上大国の侵攻を受け続けましたが、ジョージア人は自らの力で国を守り、世界最古の文化、伝統や歴史を守ってきました。

　ジョージアはとてもユニークな国です。雪山も、すばらしい海岸もあり、黒海のビーチで日光浴をして、数時間移動すれば山でスキーも楽しめます。

　337年に国教化を行った世界最古のキリスト教国の一つで、各地には非常に古い教会や修道院が数多く残っています。私たちの言語と文字は他の言語や文字と全く異なります。文学や音楽で多くの名作を生み出し、スポーツ分野では、特にレスリングや柔道が強く、多くのオリンピック金メダリストを輩出しています。また、ジョージアは日本で開催されたラグビー・ワールドカップ2019にも出場しました。

　ワインや料理も大きな誇りです。多くの科学者や専門家が世界最古のワイン生産国であると認め、その独自の製法による「クヴェヴリ・ワイン」は約8000年の歴史があります。独特の化学組成や香りを持ち、2013年にユネスコで世界無形文化遺産に登録されました。

　まだまだ語り尽くせませんが、是非世界一のおもてなし国ジョージアに遊びにきてください。

Profile

1987年生まれ。ジョージア・ムツヘタ出身。元春日野部屋所属力士。最高位は大関。本名はレヴァニ・ゴルガゼ。得意技は右四つ、上手投げ

Web Information

各国・地域情勢〈欧州〉

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/europe.html

国別の詳しい情報が

掲載されています。

渡航関連情報

https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html

海外旅行の前には

「海外安全ホームページ」や

「世界の医療事情」等で

現地事情をご確認下さい。

X

中央アジア・コーカサスと

ゆかいな仲間たち

<https://twitter.com/CentralAsiaplsJ>

写真提供：内閣広報室、JICA、flickr。

表示されていない写真の著作権は外務省に帰属します。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/

外務省

〒100-8919　東京都千代田区霞が関2-2-1　TEL 03-3580-3311（代）

編集：欧州局中央アジア・コーカサス室　発行：国内広報室

2024.3